

## 11月のことば

### 生活の見通し④ ～言葉・声

小春日和は“秋桜”の唄を思い出す。普段のさり気ない言葉を、タイミングよく手渡された時、人の心は動く。

広辞苑によると

「声」・・・ 人類又は動物の発声器から出る音、物の振動から発する音  
(つまり、その人にとって意味を含まない音響)

「言葉」・・・ 人の音声の意味を持っているもの

・・・と、有り。

先月まで述べた「生活の見通し」をつける話は

- 居場所
- レイアウト
- 導線 ～ 物の配置の工夫

・・・という主にハード面の考え方。

そこで今月はソフト面。

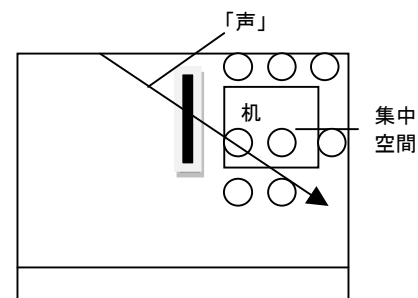
せっかくハード面で子ども達の“集中空間”を確保しても、大人の「声」によって分断されると、子どもの集中力が元に戻るまで、(今まで情緒が安定し集中力を得た時間の) 数倍を要します。

皆が無神経に右図の如く声を出すと・・・

・・・結局、子どもは落ち着きません。

又、キョロキョロと大人の顔色を見て指示を待つようになり、将来自習ができなくなる傾向があります。

そこで一考。



集中力破壊

「声」を「言葉」に変えてみます。

用があるならその人の所まで行って普通の声で丁寧に言葉を手渡すと、子ども(人)の集中空間を邪魔する事がないばかりか、相手にも真意がよく伝わります。

これを保育園のみならず家庭・職場で行なったならば、情緒の安定した文化力の高い地域になるのではないかと、文化の日を前に思うのです。